

【手づくり施工をしました：地域共生のいえ「ふくふくのいえ」の場合】

地域共生のいえ※「ふくふくのいえ」は、親子のつどいの場として地域へひらかれている住宅です。その顔となる公道に面したマツの木の下に約3.3㎡(1坪)の雨庭をつくりました。雨樋に切れ込みを入れ、ホースを接続し、水がめに雨水を誘導します。水がめにはオーバーフロー用の穴をあけ、一定以上、雨水が溜まると雨庭に雨水が流れ出るしくみです。雨庭の仕上げは、土で覆い、植栽を施しました。

基礎データ：

●面積：約3.3㎡(1坪) ●施工費：約4万円(植物：約2万円、浸透貯留材などの資材2万円)*バラ苗を除く ●主な材料：軽石(大粒約160L)、腐葉土(約40L)、バーク堆肥(約30L)、植物40株 ●植物のポイント：乾燥に強く水はけを好み、春から初夏、晩秋にかけて、花を絶やさないよう花期の長い宿根草を選びました。花が常にあると蜜源を求めて、ハナアブやミツバチ、チョウがやってきます。 ●場所：地域共生のいえ「ふくふくのいえ」喜多見9-14-15



▶この取り組みは、NPO雨水まちづくりサポートと協働しました。詳細はこちら。



※オーナーが自宅等を地域にひらき役立てる取り組み。「ふくふくのいえ」は未就園児とその親がゆっくり過ごす「おでかけひろばFUKU*fuku」として活用されています。詳細はこちら。



●主な植物：



四季咲きバラ アジサイ ギボウシ
ラベンダードリーム アナベル ジューン



クナウティア クナウティア タイワン
アルペンシス マースミジェット ホトトギス



黄斑ヤブラン ティアレラ ヒオラ
スプリングシンフォニー ラブラドリカ

【造園会社さんをお願いしました：中村さん宅の場合】

世田谷グリーンインフラ学校※を卒業後、自宅に雨庭をつくった中村さん。公道に面したブロック塀を全撤去。駐車場の地下には穴のあいた管を巡らし、車の荷重に耐えられるよう砕石を敷き込んだ上で、仕上げはレンガと植栽を施した雨庭型駐車場として整備しました(右写真)。雨樋の直下には雨水浸透ますを埋設。当初、敷地の角部にも雨庭を想定していましたが、掘削したところ地下に配管の埋設がわかり、プランター型の雨庭に変更しました(左写真)。季節ごとに植木鉢を取り換え、道行く人を楽しませる仕掛けです。



基礎データ：

●面積：約6㎡(2坪) ●施工費：約30万円(植物、土木工事一式)*ブロック塀撤去、雨水浸透ます費用除く。 ●主な植物：マメザクラ、アジュガ、ヒメツルソバ、フッキソウほか ●活用した世田谷区の助成金：「緑化助成(植栽帯・シンボルツリー)」「雨水浸透施設(浸透ます、トレンチ等)助成」「ブロック塀等の撤去工事助成」

※世田谷グリーンインフラ学校とは、雨庭づくりを学び、実際に手作り施工をする講座。世田谷区ととも世田谷トラストまちづくりが実施。詳細はこちら。



雨庭はココでも見ることができます



世田谷トラストまちづくりビジターセンター(成城4-29-1)



世田谷区立奥沢二丁目公園(奥沢2-39-9)



世田谷区立次大夫堀公園内里山農園前の小広場(喜多見5-5)

関連する支援事業

※世田谷区へ事前にご相談ください

●みどりを守り・増やすための支援

緑化助成(生垣・植栽帯・シンボルツリー・屋上・壁面緑化)、保存樹木制度
問い合わせ先：世田谷区みどり33推進担当みどり政策課
電話：03-6432-7902

●雨を活かすための雨水貯留浸透の支援

雨水タンク設置、雨水浸透施設(浸透ます、トレンチ等)助成
問い合わせ先：世田谷区土木部豪雨対策・下水道整備課
電話：03-6432-7963

【お問い合わせ】

(一財)世田谷トラストまちづくり
トラストみどり課
〒156-0043 世田谷区松原6-3-5
梅丘分庁舎1階
受付時間/平日8:30~17:00

電話：03-6379-1624 ファックス：03-6379-4233

メール：stm.202@setagayatm.or.jp



Facebook



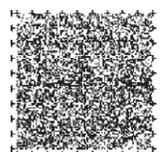
Instagram



X(TWITTER)

そだてよう みどりの世田谷
世田谷みどり33

©世田谷区



世田谷トラストまちづくりがおすすめする

自分でもできる

雨庭

【あめにわ】

の手引き



防災と生物多様性豊かなまちづくりにつながる

雨庭をあなたの家につくってみませんか



「自分でもできる雨庭」とは

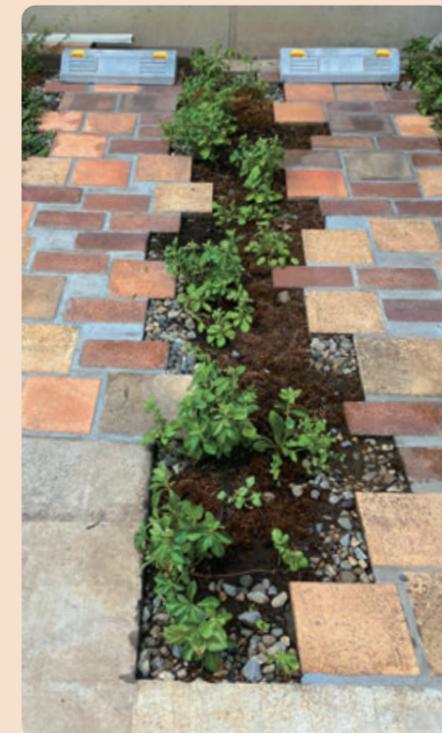
世田谷区は、東京都23区の中でも戸建て住宅が多い都市です。そのため、世田谷トラストまちづくりでは、区民が思わず取り組みたくなる、個人宅でも実践しやすい「自分



でもできる雨庭」づくりをおススメしています。「自分でもできる雨庭」とは、次の(1)~(3)のことを指します。

- (1) ホームセンターなどで気軽に購入できる材料を使い、手づくりできる庭
- (2) ガーデニングの延長線上で取り組み、植物を育てる楽しみを享受できる庭
- (3) 様々な植物を植えることで生きものすみかとなる環境を提供できる庭

一軒一軒の家が雨庭づくりに取り組むことは、地域の災害リスクを軽減させ、地下水涵養や生物多様性豊かなまちづくりにつながるだけでなく、手軽に取り組み、生活の中で楽しみや潤いを実感することが出来ます。



雨庭とは何か

屋根や地面に降った雨水を集めて一時的に貯留し、ゆっくりと地面へ浸透させる庭のことです。近年、増加する集中豪雨により雨水が一気に下水道や河川に流れ込むリスクの軽減が期待できます。雨水タンクとセットで利用することで植物への水やりや災害時の利用にも役立ちます。土壤に直接、雨水が浸み込むことで地下水を豊かにし、雨庭に植物を植えることで生きものの生息域や移動空間を増やすこともできます。



やってみよう! 「自分でもできる雨庭」 つくり方のキホン



約3.3㎡(1坪)の雨庭づくりのために
必要な手順と使用する材料、道具、
ちょっとしたコツをお伝えします

① 深さ30cmの穴を掘る

●道具: 軍手、剣スコップ、巻き尺

雨庭をつくる場所を決めたら、水が浸み込みやすい透水性の良い地盤が現れる目安として、剣スコップで深さ30cm程度の穴を掘ります。その場所の地形や地質、土地利用によって詳細は異なるのであくまで目安です。掘った際に、大きな石や砂利などが出てきたら、より分けておきましょう。



▶掘る前に、給・排水管など地下に埋設物がないか、図面があれば事前に確認。なければ、ゆっくり試し掘りをして埋設物に留意しましょう。▶基礎への影響がないように家や塀などの構造物から30cm以上離してつくりましょう。▶掘った穴に入ったり、底面を踏み固めない。踏圧により、浸透性能が落ちます。

② 掘った穴に浸透貯留材を深さ15~20cm投入

●材料: 浸透貯留材(碎石・軽石・発泡ガラスカレット、いずれも大粒)

掘った穴に浸透貯留材を深さ15~20cm程度、平らに敷きこみます。浸透貯留材とは、透水性を良くするための材料です。粒の大きさが同等であると、粒と粒の間に隙間ができ、そこに雨水を一時的に貯留することができます。軽石や発泡ガラスカレットは、粒自体が多孔質であるため、粒の中にも雨水貯留が可能となります(こ

こでは、ホームセンターなどで概ね購入可能な碎石、軽石、発泡ガラスカレットなどを使用)。手順①で、より分けた石や砂利が、浸透貯留材と粒の大きさが同等であれば一緒に投入できます。

▶手順①で、より分けた大きな石は、庭の隅っこに積むと、トカゲやカナヘビのすみかにもなります。

雨庭のタイプ

雨庭には大きくわけて2つのタイプがあります。天から降った雨水をそのまま浸み込ませる独立タイプ、雨樋に切り込みを入れて、雨水の一部を誘導する雨樋接続タイプです。雨樋接続タイプには、樋から雨水タンクに雨を溜め、次に、雨水タンクからオーバーフローする雨水を雨庭に誘導するものと、樋から直接、雨庭に誘導するものがあります。雨水タンクは、日常の散水や災害時の利用に役立ちます。樋は、材質にもよりますがホームセンターで買える塩化ビニル用カッターを用いて自分でも切ることが可能です。



② 掘った穴に浸透貯留材を深さ15~20cm投入

③ 仕上げ方は2つ
枯山水にする/土で覆い植物を配置

③ 仕上げ方は2つ 枯山水にする/土で覆い植物を配置

●材料: 玉砂利、腐葉土、赤玉土、マルチング材(バーク堆肥、バークチップなど)、好みの植物

仕上げには、2つの方法があります。ひとつは、イラストのように玉砂利で仕上げて枯山水のようにする方法です。2つ目は、下の写真のように、土で覆い植栽を施し、緑化する方法です。緑化する場合は、穴を掘った際の残土と腐葉土、赤玉土などを事前によく混ぜた上で掘った穴に投入、10~15cm平らに敷きこみます。その後、好きな植物を植え、最後に、バーク堆肥、バークチップなどを3cm厚程度でマルチング※します。

※マルチングとは、土をむき出しにせず堆肥やチップで覆うことです。保温、乾燥防止、表土流出抑制、防草対策などの効果があります。

▶雨庭におすすめの植物は何か?

雨庭と言うと、常に水が溜まっているイメージを持つかもしれませんが。実際は、土壌改良を行い、浸透性能が高まるため水はけが良くなり、むしろ、乾燥していることのほうが多いです。このため、雨庭に合う植物はどちらかというと乾燥を好む植物が選ばれます。それでは、植物はどんな視点で選ぶと良いでしょうか。ガーデニングと基本は同じです。方位(東西南北)、日照条件(一日中明るい・午前、あるいは午後のみ明るい・一日中暗い)、風通しなどを確認します。植物は、宿根草や球根がおススメです。一年草とは異なり、宿根草は環境が合えば、植えっぱなしでも毎年、花を咲かせてくれるものもあります。根を土中深く張り、多くの施肥も不要で、夏の高温時を除き水やりの必要もありません。大きく育てば株分けし、ご近所さんと植物交換も楽しめます。



雨庭はどこにつくるか

大雨が降ったときに家の敷地をよく観察すると、雨水の流れる方向や雨水がたまりやすい場所が発見できます。「普段から水はけが悪い」「湿り気がある」「水たまりがでやすい」場所に雨庭をつくと土壌の浸み込み力の改善に役立ちます。雨樋接続タイプの雨庭の場合は、最初に、家にある樋の位置を把握します。その上で、樋の近くに、雨水タンクや雨庭を設置できる場所があるかを確認します。雨庭をつくる場所は、建物等の基礎への影響がないよう、家や塀などの構造物から30cm以上離すのが理想です。

「湧水保全重点地区」「流域対策推進地区」をご存じですか
世田谷区には、湧き水を積極的に保全するエリアとして「湧水保全重点地区※1」と集中豪雨の際に、河川・下水道への雨水流入負荷を軽減する流域対策を進める「流域対策推進地区※2」があります。これらの地区に雨庭をつくることは、特に、地下水の涵養や豪雨対策につながるなどの効果があります。対象のエリアなど詳しくは世田谷区へお問合せください。

※1 成城・大蔵・岡本・砧・瀬田・上野毛・深沢・等々力・中町・野毛の一部の丁目

※2 用賀3,4丁目・上用賀地区・鎌田1,2丁目地区・上馬・弦巻地区・中町・上野毛地区・玉川・野毛地区、尾山台・奥沢地区



作画: 神谷 博